第九講『あきぎり』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

大納言と北の方は、姫君を帝の后(きさき)にしたいと思って大切に養育していたが、大納言はふとした病で亡くなってしまった。

北の方、(1)さまを変へたまひて、「後の世をだに」と行なひたまふ中にも、ただこの姫君の御ことを明け暮れ思(おぼ)しつつ、「父君おはしまさ(ア)ねば、*雲居(くもゐ)の住まひも、(2)はかばかしき御後ろ見なければ、思ひ立つまじきを、さしも類(たぐひ)なき御ありさまを、さてや虚(むな)しく埋(うづ)もれ果てたまは(イ)む」と、(3)行なひの妨げにもなりぬべく思し乱る。

やうやう年月も過ぎ行けば、ありしにもあらず荒れ果てて、築地(ついぢ)なども崩れて、門なら(ウ)ぬ通ひ路もいと多し。秋も半ばになりぬれば、風の音、虫の声々もひまなきに、いつよりも月隈(くま)なきに、格子(かうし)なども下ろさ(エ)で、姫君、端近くながめたまひても、ただ父君の御こと思し忘るる時なく、月の光、風の音につけても、よろづもの悲しくて、御傍(そば)なる*箏(さう)の琴を引き寄せて、少しかき鳴らしたまへり。

折りしも、宮の三位の中将と聞こゆる人おはしけり。花の色、月の光にも、この世は憂きものとのみ思ひたまひて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

夜もすがらいつもあくがれたまひて、よしある所は入りて、垣間見（かいまみ）たまへるに、思はず、箏の琴をゆるらかに*盤渉調（ばんしきでう）に弾き鳴らすを聞きたまふに、「(4)おしなべての爪音（つまおと）にはあらず。いかなる人なるらむ」と、ゆかしくて、築地の崩れより入りたまひて、ものの隈に立ち隠れて見たまへば、端近くながめけるとおぼえて、御簾（みす）なども少し巻き上げて、いとをかしげなる*若き人、二、三人ばかり見ゆるに、「いづれか琴弾く人」と見たまへども、この中には見えで、奥の方に聞こゆ。

月隈なく差し入りて、障（さは）りなく見ゆるに、「わづかに十四、五にや」と見えて、紛（まが）ふべくもなくいつくしげにて、月にもてはやされたる髪のかかり、手つきなどは、世の常の人とは見えず。顔は定かに見えねども、空をつくづくと目守（まも）りて、いみじうもの思へるさまなり。らうたげに、気高く見えたり。「(5)誰ばかりかこれほどならむ」と、あやなく御心もとどまりて、出（い）でたまふ心地もしたまはねば、なほ立ち聞きたまへば、御前なる人々、いとあはれなる物語して、故大納言殿の御ことなど語り出でて、「おはしまさましかば、かく心細きさまならましや」、「(6)今はいかなる方にも定まりたまひなむものを」などうち泣きなどするに、いともよほされて姫君もいみじくながめ入りて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

もの思ふ涙に空はかきくれて我から月もおぼろにぞ見る

と、うち詠(なが)むともなきさま、げに類あらじと見えたり。

（『あきぎり』による）

＊雲居の住まひ＝宮中での暮らし。ここでは、帝の后として宮中に入ることをいう。
＊箏の琴＝十三本の絃(げん)を張った琴。
＊盤渉調＝雅楽の調子の一つ。
＊若き人＝姫君に仕える侍女。後出の「御前なる人々」も同じ。

問一　傍線（１）（２）（４）の意味として、最も適当なものを次のそれぞれのア〜オの中から選べ。

（１）「さまを変へたまひて」
ア　身をお清めになって　　イ　部屋の模様替えをなさって
ウ　別の住まいにお移りになって　　エ　出家して尼姿におなりになって
オ　悲しみのためにおやせになって

（２）「はかばかしき」
ア　計算高い　　イ　ちょっとした　　ウ　親しみやすい
エ　たしなみがある　　オ　しっかりとした

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（4）「おしなべての」

ア　格別の　　イ　心づくしの　　ウ　流行遅れの

エ　ありきたりの　　オ　思ったとおりの

問二　二重傍線ア〜オの中には、一つだけ品詞の異なる語がある。その語を選べ。

ア　おはしまさねば

イ　埋もれ果てたまはむ

ウ　門ならぬ通ひ路

エ　下ろさで

オ　思はず

問三　傍線（3）「行なひの妨げにもなりぬべく思し乱る」を現代語訳せよ。

問四　傍線（5）「誰ばかりかこれほどならむ」は、宮の三位の中将の思いであるが、それを説明したものとして、最も適当なものを次のア〜オの中から選べ。

ア　姫君の困窮ぶりに、誰のせいなのかと、憤慨している

イ　姫君の姿を見て、並ぶ者のない美しさだと、感嘆している

ウ　姫君と比較できそうな他の女性たちのことを思い浮かべている

エ　姫君の住まいは世俗を厭（いと）う自分にとって理想的だと、称賛している

オ　姫君の表情を見て、誰かを慕っているのだろうと、疑わしく思っている

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線（6）「今はいかなる方にも定まりたまひなむものを」の解釈として、最も適当なものを次のア〜オの中から選べ。

ア　今では、どのようなことが起ころうとも、私たちが姫君をお守りするしかありませんね
イ　今ごろは、どのようなお相手であるにせよ、姫君はきっと結婚なさっていらっしゃるでしょうに
ウ　今ごろになって、どんなに悔やんでも仕方がないのですから、私たちはもう悲しむのはやめましょう
エ　今に、どれほどすばらしい相手が現れるかわからないのですから、姫君は心配なさらないでくださいな
オ　今となっては、どのようなことをしてでも、私たちが姫君の結婚相手をお世話するしかないのでしょうか

問六　次のア〜オの中から、本文の内容と合致しているものを一つ選べ。

ア　父君の後を追うように母君も亡くなったので、姫君はたった一人、荒れ果てた邸（やしき）で日々を送っていた。
イ　姫君が琴を爪弾（つまび）くと、訪れる人は、いつも何となくもの悲しい気分にさせられるのだった。
ウ　宮の三位の中将は、妻にふさわしい女性を見付けるために、いつも一晩中さまよい歩いていた。
エ　宮の三位の中将は、若い人々の中に混じって琴を弾いている姫君を、ただちに見付けることができた。
オ　姫君が涙ながらに、口ずさむともなく歌を詠（よ）んだ様子は、他に比べようのないすばらしさだった。

問七　『あきぎり』は、中世に成立した物語であるが、中世に成立した文学作品を、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　更級日記　　イ　雨月物語　　ウ　奥の細道　　エ　古今和歌集　　オ　沙石集

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

「　　　　　　　　」

世を｛捨つ／背く／遁る／離る／厭ふ

様を変ふ
形を変ふ
頭下ろす
御髪下ろす

まことの道に入る

発心す

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　復習問題

①　「これゆゑそむくべきうき世なりけり」の解釈として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　こういうことがあるから世の中はよくならないのだ。
イ　これをきっかけに世の中をよくしていこう。
ウ　これをきっかけに出家してしまおう。
エ　こういうことがあっても恋はあきらめない。

②　「さまかへ」の内容として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　離縁すること　　イ　出家すること　　ウ　零落すること
エ　身を隠すこと　　オ　髪上げをすること

③　「ゆかしさ」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　心が慎み深いさま　　イ　たまの派手な美しさ　　ウ　心がひかれるさま
エ　たまのやさしい輝き　　オ　心が落ち着くさま

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「らうたげなり」とはどういう意味か。最適なものを次の中から選べ。

ア　疲れている様子である　　イ　可愛らしい様子である　　ウ　大儀そうな様子である
エ　初々しい様子である　　オ　哀れな様子である

⑤「ながめがちならんもいとほしくて…」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　いつも留守がちであるのも　　イ　長雨に降り込められがちであるのも
ウ　もの思いに沈みがちであるのも　　エ　落ちぶれて貧しくなりそうなのも
オ　何事にも意欲をもてなさそうなのも

⑥「返し参らせ候ひなむ」の「候ひなむ」の文法的な説明として、適切なものを次の中から選べ。

ア　丁寧の補助動詞「候ふ」の連用形＋願望の終助詞「なむ」
イ　丁寧の補助動詞「候ふ」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋意志の助動詞「む」の終止形
ウ　尊敬の補助動詞「候ふ」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
エ　丁寧の補助動詞「候ふ」の連用形＋強意の係助詞「なむ」
オ　謙譲の補助動詞「候ふ」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の連用形＋意志の助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　模範解答

問一　⑴エ　⑵オ　⑷エ　**問二**　エ

問三　（北の方は）仏道修行の妨げにもきっとなってしまいそうなほどお悩みになる。

問四　イ　**問五**　イ　**問六**　オ　**問七**　オ

〔現代語訳〕

北の方は、出家して尼姿におなりになって、「せめて（大納言の）後世の菩提だけでも（弔おう）」と仏道修行なさる中でも、ただこの姫君の将来のことを明けても暮れても心配なさっては、「父君がいらっしゃらないので、入内しての宮中での暮らしも、しっかりとした御後見役もいないので、（入内を）決心することもできそうにないものの、こんなにも世に類のない（美しい姫君の）ご様子を、そのまま虚しく（世間に）埋もれたままで一生を終わりなさってよかろうか」と、（北の方は）仏道修行の妨げにもきっとなってしまいそうなほどお悩みになる。

次第に年月が過ぎて行くと、以前のようではなく（家が）荒れ果てて、土塀なども崩れて、門ではない（所に）通い路も多くできた。秋も半ばになったので、風の音や、虫の声々もしきりに聞こえ、ふだんよりも月は曇りなく澄みきっているときに、格子なども下ろさないで、姫君が、縁側近くに物思いに沈んでいらっしゃっても、ただひたすら（亡き）父君のことをお忘れになるときもなく、月の光や、風の音につけても、全てが物悲しくて、（ご自身の）傍らにある箏の琴を引き寄せて、少し弾き鳴らしなさる。

ちょうどそのころ、宮の三位の中将と（世間で）申し上げる人がいらっしゃった。（この方は）花の色や、月の光を見るにつけても、この世はつらいものとばかり思いなさって、一晩中いつもあちこちさまよい歩きなさって、風情のある所に立ち入って、垣間見をなさるが、思いがけず、箏の琴をゆっくりと盤渉調に弾き鳴らしているのをお聞きになると、「（これは）ありきたりの琴の音色ではない。どんな人なのであろうか」と、知りたくて、土塀の崩れから（中に）お入りになって、物陰に隠れて見ていらっしゃると、縁側の端近くで物思いにふけっていたと見えて、御簾なども少し巻き上げて、たいそう美しそうな若い侍女が、一、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三人ほど見えるが、「どれが琴を弾く人なのか」とご覧になるが、この中には見えないで、奥の方から聞こえてくる。

月が一点の曇りもなく（光が）差し込んで、何の妨げもなく（奥が）見えるが、「まだほんの十四、五歳であろうか」と見えて、見間違いもなく端正で美しい姿で、月の光で一段と美しさが増した髪の垂れ具合、手の様子などは、世間並みの人とは見えない。顔ははっきりと見えないが、空をしみじみと見つめて、ひどく物思いに沈んでいる様子である。可憐で、上品に見える。「いったい世間の誰がこれほど美しいだろうか（並ぶ者はいないだろう）」と、（中将は）分別も失うほどお心を惹かれて、出て行く気になれないでいらっしゃるので、さらに立ち聞きをなさると、（その姫君の）おそばにいる人々が、ひどく物悲しげな話をして、故大納言殿のことなどを語り出して、「もし（大納言様が）生きていらっしゃったならば、このように心細いありさまであっただろうか」、「今ごろは、どのようなお相手であるにせよ、（姫君は）きっと結婚なさっていらっしゃるだろうに」などと言って泣き出したりなどするので、ますます悲しさがこみ上げて姫君もひどく物思いに沈んで、

もの思ふ……＝物思いに沈む涙で空も暗く見えて、そのような自分のせいで月もおぼろに霞んで見えることです。

と、口ずさむともなく歌を詠んだ様子は、実に類なくすばらしいと見えた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○さま（を）かふ【様変ふ】…①**出家する**。姿を変える。②ふつうと趣を異にする。

○はかばかし【果果し・捗捗し】…①てきぱきしている。②きわだっている。**はっきりしている**。③たのもしい。

○ひまなし【隙なし・暇なし】…①**隙間がない**。②**絶え間がない**。③油断がない。

○くまなし【隈なし】…①**影がない**。②行きとどいている。③隠しだてがない。

○ながむ【眺む】…①物思いに沈んでぼんやり見る。②じっと遠くを見る。

【詠む】…詩歌を吟じる。

○あくがる【憧る】…①うわの空になる。②思いこがれる。③**さまよい歩く**。

○よし【由】…①**由緒**。②**方法**。③**理由**。④風流。⑤次第。**〜とのこと**。⑥縁。⑦ようす。

○ゆかし【床し】…①**見たい**。**聞きたい**。**知りたい**。②なんとなく**慕わしい**。

○らうたげなり…かわいらしいさま。

○あやなし【文無し】…①**道理がたたない**。わけがわからない。②**むなしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　解答解説

〔解説〕

①「世をそむく」は「出家する」という意味。よって、正解はウ。

②「さま変ふ」も「出家する」という意味。よって、正解はイ。

③「ゆかし」は重要単語で、「見たい・聞きたい・知りたい・心がひかれる」の意味。よって、正解はウ。

④「らうたげなり」は重要単語で、「かわいらしい」の意味。よって、正解はイ。

⑤「ながむ」は重要単語で、「物思いにふける・詩歌を吟じる」の意味。よって、正解はウ。

⑥「なむ」の識別。上が**連用形**なので、**確述用法**（助動詞「ぬ」の意味が、選択肢はすべて「完了」で「強意」がないので、「完了」の意味でとればよい）。よって、アとエは削る。「な」は未然形なので、オも削る。「候ふ」には尊敬の意味はない。よって、正解はイ。

〔解答〕

①ウ　②イ　③ウ　④イ　⑤ウ　⑥イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。